

神の戒めと人間の言い伝え

マルコによる福音書七章1-16節

あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。(8)

律法学者たちは昔の人々の言い伝えを非常に重んじていました。それらは律法そのものではなく、律法の教えを実践に生かそうとする意図で生み出されたものでした。それらがいつの間にか絶対的な權威を持つものであるかのようにみなされ、人々を拘束し、やがては神の戒めと対立させようになっていました。神の戒めとそれを解釈した人間の教えとが対立する場合は、神の戒めを優先すべきは—but、律法学者たちは全く逆の態度をとっていたのです。これは現代の私達にも通じる問題です。今も、聖書の内容よりも形式だけを重んじる形式主義、律法主義に陥る危険をはらんでいます。人間の言い伝えを神の言葉のように振りかざすのではなく、それぞれの時と場合に応じて何が神の最善の御心かを真摯に問い続けながら生きる歩みが続けて行きたいものです。